

小規模校のメリット・デメリット・学校運営上の課題に関する論点（案）

「町田市立学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査（以下『アンケート調査』）」の結果と第 1 回審議会において各委員から出されたご意見なども踏まえて、小規模校（法令で定める標準の学級数を下回る学校）のメリット・デメリット・学校運営上の課題に関する論点について、事務局から下記のとおり提案します。

1. 小規模校のメリットの論点について

アンケート調査結果において上位となっている「小規模校のメリット」の傾向をもとに論点を提案します。

(1) 「ICT 機器などの授業で使用する教具が一人一人に行き渡りやすい」の傾向

小学校では保護者・教員とも 1 位、中学校では保護者・教員とも 2 位でした。

しかし、小学校において小規模校を経験した教員の調査結果を見ると 4 位以下となっており、「教具を行き渡らせやすい」のメリットとしての評価が低くなっています。

(2) 「子どもたちの人間関係が深まりやすい」の傾向

小学校では保護者は 2 位で教員は 4 位以下、中学校では保護者・教員とも 3 位でした。

しかし、小学校において小規模校に子どもが在籍する保護者の調査結果を見ると 4 位以下となっており、小規模校のデメリットでは「子どもたちの人間関係が固定化しやすい」が 1 位となるなど、メリットよりもデメリットとしての評価が高くなっています。

(3) 「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」の傾向

小学校では保護者は 3 位で教員は 2 位、中学校では保護者・教員とも 1 位でした。

しかし、保護者・教員の自由記述の回答や、第 1 回審議会における委員からの発言にもあったとおり「小規模校ではなく少人数学級のメリットではないか」「小規模校でも 1 学級の児童・生徒が多ければメリットを感じない」のようなご意見が寄せられています。

【小規模校のメリットの論点】

審議会における少人数学級の検討の要否について

2. 小規模校のデメリット・学校運営上の課題

アンケート調査結果において上位となっている「小規模校のデメリット」「小規模校の学校運営上の課題」の傾向をもとに論点を提案します。

(1) 「子どもたちの人間関係や相互の評価などが固定化しやすい」の傾向

小学校では保護者は 2 位で教員は 1 位、中学校では保護者・教員とも 2 位でした。

特に、小学校において小規模校に子どもが在籍する保護者の調査結果を見ると 1 位となっており、回答者の 90%以上がデメリットと評価しています。

(2) 「多様な考え方に触れる機会、学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」の傾向

保護者では小・中学校とも 4 位以下で、教員では小・中学校とも 3 位でした。

しかし、小学校において小規模校を経験した教員の調査結果を見ると 2 位で回答者の 80%以上がデメリットと評価しており、中学校においても小規模校を経験した教員の調査結果でも回答者の 80%以上がデメリットと評価しています。

(3) 「部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい」の傾向

部活動を行う中学校の保護者は3位で教員は1位となっています。

さらに、中学校において小規模校に子どもが在籍する保護者の調査結果を見ると全体で3位であったものが1位となっており、デメリットとしての評価が高くなっています。

(4) 「中学校の部活動の指導者確保が困難となりやすい」の傾向

教員を対象に調査した「小規模校の学校運営上の課題」において、中学校の教員で1位となっており、回答者の90%以上が学校運営上の課題と評価しています。

(5) 「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」の傾向

教員を対象に調査した「小規模校の学校運営上の課題」において、小学校の教員は1位で中学校の教員は3位となっており、回答者の80%以上が学校運営上の課題と評価しています。

(6) 「中学校の教員定数上、教員ごとに受け持つ授業時間数に不均衡が生じやすい」の傾向

教員を対象に調査した「小規模校の学校運営上の課題」において、中学校の教員で2位となっており、回答者の90%以上が学校運営上の課題と評価しています。

【小規模校のデメリット・学校運営上の課題の論点】

①子どもたちの人間関係から見たデメリットについて

②教職員の体制づくりから見たデメリットについて

③子どもたちが多様な考え方に触れる機会、学び合いの機会、切磋琢磨する機会から見たデメリットについて